

「9条改憲に反対し、安倍内閣の退陣を求める京都アピール」を発表して

中島 晃（常任世話人、弁護士）

いま、日本で国家の私物化といわれる事態が進行している。その上、公文書の改ざん、隠蔽が横行するなど、法治国家を支える基本的な規範や倫理が崩壊しつつあるといっても過言ではない。

こうした状況を生み出しているのは、安倍政権のもとでの強権的な政治手法であるといえよう。

とりわけ、最近の沖縄・辺野古での土砂投入の強行は、この国の政治がもはや壊れつつあるのではないかとさえ、思わせるものがある。

昨年6月6日、世界平和七人委員会が「安倍政権下で、日本人の道義は地に堕ちた」と述べて、安倍内閣の即時退陣を求めるアピールを発表した。

そこで、これに呼応する形で、京都でも「9条改憲に反対し、安倍内閣の退陣を求める京都アピール」を発表しようということで、立命館大学国際平和ミュージアムの安齋育郎先生などを中心にして、準備が進められてきた。

安倍政権が9条改憲に向けて、国会での発議を強行する姿勢を強める中で、去る12月5日、益川敏英さんなど14人の連名で「9条改憲に反対し、安倍内閣の退陣を求める京都アピール」を発表した。

この京都アピールの発表後、思いがけず、さまざまところから反響があった。このアピールのよびかけにこたえて、一人でも多くの人が安倍内閣の退陣を求める声をあげていくことが重要になってきている。

なお、この京都アピールの発表にあたって、七人委員会の一人である大石芳野さん（写真家）からは、次のようなメッセージが送られてきている。

安倍政権を支持する人たちは「このままでいい」といいます。「憲法9条」を変えても、大地震のようにすぐには影響がなく「このまま」の日々でしょう。けれど、徐々に窮屈になり、やがて険悪な事態になる…そして、取り返しがつかなくなることは私たちの国の歴史が証明しています。国会を私物化したような政権を国民の政権に取り戻さなければなりません。地に足を付けた視点に立ち、想像力を働かせれば、今の状況がいかに危機的であることか！ 打開しなければ子どもたちの将来が不安です。

「京都アピール」よびかけ人14人（アイウエオ順）の名簿

安齋育郎（立命館大学国際平和ミュージアム名譽館長）

飯田哲夫（医師）

岩井忠熊（立命館大学名譽教授）

岡野八代（同志社大学大学院教授）

須田 稔（立命館大学名譽教授）

隅井孝雄（ジャーナリスト）

竹本修三（京都大学名譽教授）

野田正彰（評論家）

浜 矩子（同志社大学大学院教授）

広原盛明（京都府立大学元学長）

益川敏英（京都大学名誉教授、名古屋大学素粒子宇宙超源研究機構機構長）

宮城泰年（本山修験宗管長）

宮本憲一（大阪市立大学名誉益）

望田幸男（同志社大学名誉教授）

また、京都アピールよびかけ人実行委員会（代表安齋育郎）の主催で下記のとおり市民集会を開催します。是非、一人でも多くの市民の皆さんに参加していただきたい。

日時 2019年2月9日（土） 午後2時30分

場所 キャンパスプラザ京都 4階 第2会議室